

常なる磐

つねなる いわ season II

令和3年5月14日(金)

その3

◇ 徳を積む

温暖さが草木の生長を促す5月。本県への3度目の緊急事態宣言が発出される前日の11日、早朝より、「常東寿会」の皆さん25名が環境整備に手を貸して下さった。



数日前は中止も視野に入れていたが、会長の長谷川さんからの『宣言が出される前だから大丈夫。やりますよ』との声に勇気づけられる。



社教の恒例行事とはいえ、本当にありがたい。今のご時勢、保護者以外の地区住民に学校に足を運んでもらえることが貴重である。しかも、学校のために手をかけ、力を尽くしていただけることが大変嬉しい。

来年は子供たちを参加させ、学校と地区との合同環境整備活動（特別活動の授業）として位置付け、奉仕活動を通して徳を積むことの大切さを肌で感じさせたいと思っている。

なぜなら、寿会の皆さんには、言葉に表さずとも、草取りを行うその姿から伝わる【徳】がある。興味津々で、集中力はあるがあまり長続きしない子供たちにとって、寿会の皆さんが事にあたる直向きな姿は、子供たちの心に大事なものを伝え、感じさせてくれるに違いない。

そして、ひいては、子供たちが成長した時、心の隅に残る「大切なもの」が行動を支え、地域に還元していくことを期待している。

加えて、子供たちが寿会の皆さんと同じ世代となったとき、本校ではないかもしれないが自分が住む地域の学校に赴き、人生を通して重ね、積んだ徳を、姿を通して次世代の子供たちに伝えていってけると信じたい。

【おまけ】



左の写真が 25 名の常東寿会の皆さんが作業をしていただいた後に残った【徳】である。実に岡崎市のごみ収集用ケース 12 箱になる。

特に今回は、グラウンドよりもグラウンド周辺部の普段あまり手を入れていない部分に対応していただいた。

この写真を見れば、さもありなん。学校は隅々まできれいになった。

さて、下の写真。鬼芝の根である。



グラウンドに少しだけ出した新芽を頼りに、芽をほじくり返す。

根こそぎ出ないと、すぐ芽を生やす。とは言っても、掘っても、掘っても、繋がる根っこ。

『もう、きりがいいわあ…』と言いつつも、根っこに負けない粘りで頑張っていた。



皆さんが帰られた後のグラウンドは、3 年生の体育。運動会の種目にはないリレーが行われていた。

子供たちは、とっても走りやすそう。そりゃそうだ。

鬼芝の代わりに、たくさんたくさん【徳】をまいてもらったからね。